

# 刺網によるニゴロブナ漁獲物調査

根本 守仁

## 1. 目的

資源管理型漁業を推進するうえでの基礎資料とするため、ニゴロブナの主要な漁法である刺網漁での漁獲物の調査を行った。

## 2. 方法

調査は、平成 28 年 1 月 31 日に、竹生島の南の水域（水深 86m）で刺網により漁獲されたニゴロブナ 134 尾を対象に実施した。

標本は、冷凍保存とし、解凍後に体長や生殖腺重量等を計測した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

## 3. 結果

年齢および性別の個体数および割合を表 1 に示した。

年齢組成について、雌雄ともに 1~5 歳魚まで漁獲されていたが、最も多かったのは 4 歳魚で全体の 33.6%を占め、次いで 2 歳魚の 29.1%、3 歳魚の 26.1%となった。現在、資源管理の取り組みでは、漁獲開始年齢を引き上げることで 1 回でも産卵させてから漁獲するという目的で、全長 22 cm未満の漁獲が規制されている。ニゴロブナは満 2 年で産卵することから、当初の資源管理の目的が達成されていることが明らかとなった。

表 1 刺網で漁獲されたニゴロブナの年齢および雌雄別の個体数および割合

年齢	雌		雄		合計	
	個体数	(%)	個体数	(%)	個体数	(%)
1	1	0.9	1	4.5	2	1.5
2	35	31.3	4	18.2	39	29.1
3	26	23.2	9	40.9	35	26.1
4	39	34.8	6	27.3	45	33.6
5	11	9.8	2	9.1	13	9.7
合計	112	100.0	22	100.0	134	100.0

ニゴロブナでは抱卵した雌で商品価値が高く、抱卵していない雌については市場では銘柄「オス」として扱われている。そして、これまでの調査結果から、GSI(体重に占める生殖腺重量の割合)が 6%以上のものを銘柄「メス」、それ未満を銘柄「オス」として扱われていることが明らかとなっている<sup>1)</sup>。そこで、雌について、年齢別のGSIが 6%以上、および 6%未満の個体数および割合を表 2 に示した。GSIが 6%未満の個体は、どの年齢においてもみられ、3~5 歳魚では約 35%、2 歳魚では 51.4%と半数以上が「オス」として扱われていた。生殖腺の発達状況は、年ごとにばらつきがあり、今後も継続した調査が必要であるが、現行の資源管理の取り組みでは漁獲開始時期を 1 月としているが、商品価値を高める観点から再検討する必要があると考えられた。

表 2 ニゴロブナ雌の年齢別の GSI 6%以上および 6%未満の個体数および割合

年齢	1	2	3	4	5
6%未満	0	18	9	14	4
6%以上	1	17	17	25	7
合計	1	35	26	39	11
(%)					
6%未満	0.0	51.4	34.6	35.9	36.4
6%以上	100.0	48.6	65.4	64.1	63.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0